

## Ⅶ 資料

### 1. 文献及び関係するサイト

これらのデータについては

- ICT 研究の基礎となる国の事業や政策に関するもの
  - ICT の活用実践等の情報がまとめられているもの
  - アンケート調査に関わって有益な情報となるもの
- といった視点で整理収集をしたものである。

- 1) ATAC カンファレンス事務局 (2014).ATAC2014 テキスト . ころりソースブック出版会 .
- 2) ベネッセ教育総合研究所 (2014). 「ICT を活用した学びのあり方」に関する調査～教員が考える子どもたちに身につけてほしい力と ICT 活用について～ .
- 3) 金森克浩 (2012). [実践] 特別支援教育と AT (アシスティブテクノロジー) 第 1 集 . 明治図書 .
- 4) 金森克浩 (2013). [実践] 特別支援教育と AT (アシスティブテクノロジー) 第 2 集 . 明治図書 .
- 5) 金森克浩 (2013). [実践] 特別支援教育と AT (アシスティブテクノロジー) 第 3 集 . 明治図書 .
- 6) 金森克浩 (2014). [実践] 特別支援教育と AT (アシスティブテクノロジー) 第 4 集 . 明治図書 .
- 7) 金森克浩 (2014). [実践] 特別支援教育と AT (アシスティブテクノロジー) 第 5 集 . 明治図書 .
- 8) 金森克浩 (2015). [実践] 特別支援教育と AT (アシスティブテクノロジー) 第 6 集 . 明治図書 .
- 9) 国立特別支援教育総合研究所 (2009) . 障害のある子どものための情報関連支援機器等の活用を促進するための教員用映像マニュアル作成に関する研究 (研究代表者 : 中村均) 専門研究 A (平成 19 年度～ 20 年度) 研究成果報告書 . 国立特別支援教育総合研究所 .
- 1 0) 国立特別支援教育総合研究所 (2011) . 障害の重度化と多様化に対応するアシスティブ・テクノロジーの活用と評価に関する研究 (研究代表者 : 棟方哲弥) 専門研究 A (平成 21 年度～ 22 年度) 研究成果報告書 . 国立特別支援教育総合研究所 .
- 1 1) 国立特別支援教育総合研究所 (2012) . デジタル教科書・教材及び ICT の活用に関する基礎調査・研究 (研究代表者 : 金森克浩) . 専門研究 A (平成 23 年度重点推進研究) 研究成果報告書 . 国立特別支援教育総合研究所 .
- 1 2) 国立特別支援教育総合研究所 (2014a) . 特別支援学校 (視覚障害) における教材・教具の活用及び情報の共有化に関する研究 - ICT の役割を重視しながら - (研究代表者 : 金子健) . 専門研究 B (平成 24 年度～ 25 年度) 研究成果報告書 . 国立特別支援教育総合研究所 .
- 1 3) 国立特別支援教育総合研究所 (2014b) . 特別支援学校 (肢体不自由) の AT・ICT 活用の促進に関する研究 - 小・中学校等への支援を目指して - (研究代表者 : 長沼俊夫) . 専門研究 B (平成 24 年度～ 25 年度) 研究成果報告書 . 国立特別支援教育総合研究所 .
- 1 4) 国立特別支援教育総合研究所 (2014c). デジタル教科書・教材の試作を通じたガイドライン

- の検証－アクセシブルなデジタル教科書を目指して－. (研究代表者:金森克浩). 専門研究 A (平成 24 年度～ 25 年度) 研究成果報告書. 国立特別支援教育総合研究所.
- 1 5) 公益財団法人中央教育研究所 (2014). 教師と児童・生徒のデジタル教科書に関する調査「一小学校・中学校を対象に一. 公益財団法人中央教育研究所.
  - 1 6) 魔法のプロジェクト: <http://maho-prj.org/>, (アクセス日 2016-02-04)
  - 1 7) 文部科学省 (2008). 障害のある児童及び生徒のための教科用特定図書等の普及の促進等に関する法律等の施行について (通知). 文部科学省.
  - 1 8) 文部科学省 (2010). 教育の情報化に関する手引. 文部科学省.
  - 1 9) 文部科学省 (2011). 教育の情報化ビジョン. 文部科学省.
  - 2 0) 文部科学省 (2012). 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進 (報告). 文部科学省.
  - 2 1) 文部科学省 (2013). 障害のある児童生徒の教材の充実について 報告. 文部科学省.
  - 2 2) 文部科学省 (2014) 発達障害のある子供たちのための ICT 活用ハンドブック. 文部科学省.
  - 2 3) 文部科学省 (2014). 教育の IT 化に向けた環境整備 4 か年計画パンフレット - 学校の ICT 環境を整備しましょう! -. 文部科学省.
  - 2 4) 文部科学省: 学びのイノベーション事業:  
<http://jouhouka.mext.go.jp/school/innovation/>. (アクセス日 2016-02-04)
  - 2 5) 文部科学省: 学校における教育の情報化の実態等に関する調査.  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/chousa01/jouhouka/1259933.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/jouhouka/1259933.htm),  
(アクセス日 2016-02-04)
  - 2 6) 文部科学省: 教育の情報化. <http://jouhouka.mext.go.jp/>, (アクセス日 2016-02-04).
  - 2 7) 中村均 (2011). 障害のある子どもの教育に関する教育工学的 アプローチによる研究の動向 (pp95-126). 国立特別支援教育総合研究所研究紀要 第 38 巻.
  - 2 8) 中邑賢龍 (2014) AAC 入門 コミュニケーションに困難を抱える人とのコミュニケーションの技法. ころりソースブック出版会.
  - 2 9) 中邑賢龍 (2015). 学校の中のハイブリッドキッズたち. ころりソースブック出版会.
  - 3 0) 奈良教育大学特別支援教育研究センター (2014) 「特別支援教育における ICT 教育に関する調査」のまとめ. 奈良教育大学.
  - 3 1) 日経 BP コンサルティング (2015). 障害者のインターネット利用実態調査 2015 (視覚障害者). 日経 BP コンサルティング.
  - 3 2) 総務省: フューチャースクール推進事業.  
[http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/joho\\_tsusin/kyouiku\\_joho-ka/future\\_school.html](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/kyouiku_joho-ka/future_school.html).  
(アクセス日 2016-02-04).
  - 3 3) 田村 恭久 (2015). 電子教科書の規格と EDUPUB の現状.
  - 3 4) 東京都教育委員会 (2014). 特別支援学校におけるタブレット端末活用事例.
  - 3 5) 一般社団法人日本教育情報化振興会 (2014). 第 9 回 「教育用コンピュータ等に関するアンケート調査」報告書.

(資料2)

## 「障害のある児童生徒のためのICT活用に関する総合的な研究—学習上の支援機器等教材の活用事例の収集と整理—」に関するアンケート調査 (特別支援学校版)

はじめにお読みください

### 1. 本調査の目的

本調査は、国立特別支援教育総合研究所における、専門研究A「障害のある児童生徒のためのICT活用に関する総合的な研究—学習上の支援機器等教材の活用事例の収集と整理—」(平成26年度～平成27年度)の研究の一環として行う調査です。

本調査では、ICTの活用を中心に、全国の特別支援学校における学習上の支援機器、教材・教具等の保有状況並びに、その活用の現状と課題を把握することを目的としています。

この調査のデータは、全国の特別支援学校についての全体的な状況を把握するために使用し、個々のデータをその学校や設置者、回答者が分かるような形で公表することはありませんが、特徴的な事例については、訪問調査の対象とさせて頂くとともに、研究成果報告書や文部科学省が進めている教材データベース等への掲載について、別途をお願いすることがあります。

**なお、本調査は、平成26年8月1日現在の状況をお答えください。**

(※アシスティブ・テクノロジー(支援技術)において活用される様々な機器のこと)

### 2. 本調査の回答者

情報・支援機器等のご担当者を想定しております。

### 3. 調査結果の公表について

この調査のデータは、全体的な状況を把握するために使用します。個々のデータをその学校や設置者及び回答者が分かるような形で公表することはありません。

### 4. 締め切り

回答はメールに添付の上、平成26年9月5日(金)までに返信ください。

回答専用e-mail : [v-ict-res1@nise.go.jp](mailto:v-ict-res1@nise.go.jp)

### 5. 問い合わせ先

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

〒239-8585 神奈川県横須賀市野比5-1-1

問い合わせ専用e-mail:

[v-ict-inquiry@nise.go.jp](mailto:v-ict-inquiry@nise.go.jp)

研究代表者 金森克浩

調査担当 棟方哲弥

※このファイルはEXCEL2013で作成しておりますので、EXCEL2007以上での開封を推奨いたします。

※プルダウンで選択内容を変更したい時は、「delete」キーを押して、再度選択してください。

#### 【アンケート調査の質問項目】

※本調査では、次のⅠ～Ⅵの6区分について伺います。

Ⅰ. 基本情報	Ⅳ. デジタル教科書等の整備
Ⅱ. 校内体制	Ⅴ. ICT並びに支援機器の活用状況
Ⅲ. 機器の整備	Ⅵ. 研究指定校など(オプション)

#### ※アンケートの入力に関する注意点

アンケートの入力に関しましては、以下の点に気を付け入力してください。

①各設問は太枠内に入力してください。太枠以外のセルには入力しないでください。

②  ※水色のセルは自由記載回答です。セル内での改行は行わないようお願いいたします。

③  ※ピンク色のセルは選択式の設問です。プルダウンから選択してください。

下記に、回答者の職名・担当部署等・氏名を記入の上、次ページ以下の質問にお答えください。

設置区分 選択肢一覧	1=本校 2=分校 3=分教室
---------------	-----------------------

職名 選択肢一覧	1=校長 2=副校長 3=教頭 4=校長・副校長・教頭以外の管理職 5=主幹教諭 6=指導教諭 7=教諭 8=その他
-------------	---

学校名					
障害種別	1=視覚	2=聴覚	3=知的	4=肢体	5=病弱
設置区分					
職名					
担当部署等					
記入者の氏名					
メールアドレス					

※障害種別は、設置されている(学則等で受け入れを明示している)障害種別を選択ください。

※また、本校、分校、分教室等は、別々に調査を依頼しております。それぞれの校舎の状況をお答えください。

## I 基本情報

### 1. 教員数、学級数及び児童生徒数について

貴校の教員数(本務教員数\*)、学級数及び児童生徒数について、平成26年8月1日現在でお答えください。  
(本校、分校、分教室等は、別々に調査を依頼しております。それぞれの校舎の状況をお答えください。)

\*本務教員とは、当該本校、分校、分教室等に籍のある常勤教員のことです。

#### 【幼稚部】

本務教員数	
学級数	
幼児数	

#### 【小学部】

本務教員数	
学級数	
児童数	

#### 【中学部】

本務教員数	
学級数	
生徒数	

#### 【高等部本科】

本務教員数	
学級数	
生徒数	

#### 【高等部専攻科】

本務教員数	
学級数	
学生数	

## II 校内体制

### 1. ICTを活用するための校内分掌がありますか。

選択肢一覧	1=ある 2=ない
-------	--------------

#### 【「ある」を選んだ方へ】

主たる分掌について、以下の選択肢の中からお選びください。その他を選択された方はその他の欄にお書きください。

選択肢一覧	1=情報部・情報教育部 2=自立活動部 3=教務部 4=研究部 5=その他( )
-------	--

その他	
-----	--

#### (1)ICTの活用に関する教職員全体の理解

(1)選択肢一覧	1=十分にある 2=ある程度ある 3=あまりない
----------	--------------------------------

#### (2)-1. ICTの活用に関するキーパーソンの存在

(2)-1選択肢一覧	1=いる 2=いない 3=どちらともいえない
------------	------------------------------

#### (2)-2. ICTの活用に関する他の職員との連携

(2)-2選択肢一覧	1=とれている 2=とれていない 3=どちらともいえない
------------	------------------------------------

#### (3)ICTの活用に関するガイドブックやマニュアルの存在

1=学校独自のものがある	
2=独自ではないがある	
3=ない	

### 2. 学校にはICTを使った授業を支援する「ICT支援員」はいますか。

(1)選択肢一覧	1=いる 2=いない
----------	---------------

【(1)で「1=いる」を選んだ方へ】

(2)「1=ある」場合、いる場合は、名称と人数をお書きください。頻度は1=週、2=月の選択肢がありますので、プルダウンよりお選び、その隣に日数をお書きください。

※選択肢一覧	1=週 2=月
--------	------------

名称		
人数		
頻度		

【(1)で「2=いない」を選んだ方へ】

(3)「いない」場合、必要性和必要な人数をお書きください。

(3)必要性 選択肢一覧	1=必要である 2=必要でない
-----------------	--------------------

(3)頻度 選択肢一覧	1=週 2=月
----------------	------------

必要性		
人数		
頻度		

3-(1). 教材・教具(ICT活用を除く)を活用するための分掌

3-(1)選択肢一覧	1=ある 2=ない
------------	--------------

--

【(1)で「1=ある」を選んだ方へ】

3-(2)「1=ある」場合、主たる分掌をお知らせください。

3-(2)選択肢一覧	1=情報部・情報教育部 2=自立活動部 3=教務部 4=研究部 5=その他( )
------------	--

その他	
-----	--

4. ICT活用、支援機器、教材・教具等に関する校内研修について校内研修会を実施していますか。

4. 選択肢一覧	1=実施している 2=実施していない
----------	-----------------------

--

【4で「実施している」を選んだ方へ】

(2)「実施している」場合、どのような内容の研修を実施していますか。

※選択肢一覧	1=全校 2=学部 3=学年 4=自主的研修
--------	---------------------------------

(記入例)授業研究を含む研修を実施

年間の実施回数	3
対象	1
具体的内容	演習を伴う研修を実施

演習を伴う研修を実施

年間の実施回数	
対象	
具体的内容	

授業研究を含む研修を実施

年間の実施回数	
対象	
具体的内容	

5. センターの機能におけるICT活用あるいは、これらに関する支援の例があれば、お書きください。

また、センター的機能によるICT、支援機器、教材・教具の活用支援を実施していますか。

5. 選択肢一覧	1=実施している 2=実施していない
----------	-----------------------

支援例	
-----	--

Ⅲ 機器の整備

1. 学校の情報環境についてお聞きます。

(1)学校内に無線LANに接続できる環境はありますか。

(1). 選択肢一覧	1=はい 2=いいえ
------------	---------------

【(1)で「1=はい」を選んだ方へ】

(2)「はい」の場合、どこにありますか。以下から選んでください。(複数回答可)

選択肢	1=職員室	2=コンピュータ教室	3=普通教室	4=特別教室	5=体育館
	6=校庭	7=その他			
特別教室内訳					
その他					

【(1)で「2=いいえ」を選んだ方へ】

(3)「いいえ」の場合、必要性の有無と、必要な場所を以下から選んでください。

①無線LANへの接続は必要ですか。

①選択肢一覧	1=必要である 2=必要でない
--------	--------------------

--

②無線LANが必要な場所はどこですか。

選択肢	1=職員室	2=コンピュータ教室	3=普通教室	4=特別教室	5=体育館
	6=校庭	7=その他			
特別教室内訳					
その他					

2. ICT活用を中心とした学習上の支援機器、教材・教具等の保有状況について、平成26年8月1日現在で回答してください。

また、今年度中に導入されることが決定している場合には、それを含めて記入ください。

活用について 選択肢一覧	1=活用されている 2=あまり活用されていない
-----------------	----------------------------

台数について 選択肢一覧	1=台数は十分である 2=足りない
-----------------	----------------------

(1)電子黒板

項目		
活用について	台数について	学校全体の台数

(2)コンピュータ画面を拡大表示する機器<sup>注1)</sup>

項目		
活用について	台数について	学校全体の台数

注1)「コンピュータ画面を拡大表示するもの」とは、プラズマテレビ、液晶テレビ、プロジェクタなどのコンピュータ画面を拡大して表示できる機器のことです。

(3)タブレット型コンピュータ

項目	活用について	台数について	学校全体の台数
Windows			
iOS			
Android			
その他			
その他の名称			

(3)-②障害に合わせたタブレット用入出力機器(固定具、スイッチ・点字表示装置等)を保有していますか。

(3)-②選択肢一覧	1=ある 2=ない
------------	--------------

--



【(3)-②で「ある」を選択された方へ】

(3)-③ある場合には名称と個数をお知らせください。

項目	名称	個数
固定具		
スイッチ		
点字等の外部キーボード		
点字ディスプレイ		
その他		
その他の内容		

活用について 選択肢一覧	1=活用されている 2=あまり活用されていない
-----------------	----------------------------

台数について 選択肢一覧	1=台数は十分である 2=足りない
-----------------	----------------------

(4)実物投影機

項目		
活用について	台数について	学校全体の台数

(5)スキャナ

項目		
活用について	台数について	学校全体の台数

(6)デジタルカメラ

項目		
活用について	台数について	学校全体の台数

(6)-① 障害に合わせたデジタルカメラ用の固定具、入出力機器(スイッチ・コントローラー等)を保有していますか。

(6)-①選択肢一覧	1=ある 2=ない
------------	--------------

--

【(6)-①で「ある」を選択された方へ】

(6)-②. ある場合には名称と個数をお知らせください。

項目	名称	個数
固定具		
スイッチ・コントローラー		
その他		
その他の内容		

活用について 選択肢一覧	1=活用されている 2=あまり活用されていない
-----------------	----------------------------

台数について 選択肢一覧	1=台数は十分である 2=足りない
-----------------	----------------------

(7)教育用コンピュータ<sup>注2)</sup>

項目		
活用について	台数について	学校全体の台数

(7)-① 障害に合わせたコンピュータ用入出力機器(固定具、タッチパネル、スイッチ用インターフェース、点字表示装置等)を保有していますか。

(7)-①選択肢一覧	1=ある 2=ない
------------	--------------



【(7)-①で「ある」を選択された方へ】

(7)-②. ある場合には名称と個数をお知らせください。

項目	名称	個数
固定具		
タッチパネル		
スイッチ用インターフェース		
点字ディスプレイ		
その他		
その他内容		

注2)「教育用コンピュータ」とは、タブレット型以外の教育用コンピュータをいう。

(8)及び(9)の 選択肢一覧	1=タブレット型コンピュータ(iPad等) 2=デスクトップ型やノート型のコンピュータ 3=小型キーボード型メモ入力装置(コンピュータ含む。) 4=ICレコーダ 5=タイマー 6=携帯型会話補助装置(VOCA) 7=アウトラインプロセッサ、フローチャート 8=音声リーダー(読み上げ・辞書機能) 9=画面拡大ソフトウェア 10=OSのユーザー設定機能・設定初期化ソフトウェア 11=OCRソフトあるいは装置(文字認識ソフト等) 12=見える校内放送 13=携帯電話(メール機能) 14=POS(販売時点情報管理)・CAD(コンピュータ支援設計) 15=インターネット上の掲示板機能 16=50音キーボード 17=ピンディスプレイ 18=タッチパネル 19=ジョイスティック・トラックボール 20=各種スイッチ(固定支持器を含む。) 21=入力支援ソフトウェア 22=テレビ会議
--------------------	---

(8)上記の支援機器等について、学校で十分に利用されているものを順に3つお選びください。

1	2	3

(9)上記の支援機器等について、今後、学校で必要と思われるものを順に3つお選びください。

1	2	3

(10)本人あるいは保護者による就学奨励費での情報端末等の購入の実績あるいは予定についての事例がありましたら、お聞かせください。

購入した機器名称		
学部		
学年		
購入理由等		

#### IV デジタル教科書等の整備

1. 教科書準拠デジタルコンテンツ(電子黒板等を用いて児童生徒への指導に用いる「デジタル教科書」)がある場合、以下の該当する項目すべてに○をつけてください。教科内の科目についてはあるものを記入してください。  
例:社会(世界史)

小学校1～2年

	1=国語	2=算数	3=その他
選択肢			
その他の教科名			

小学校3年以上

	1=国語	2=算数	3=理科	4=社会	5=その他
選択肢					
その他の教科名					

中学校1～3年

	1=国語	2=数学	3=理科	4=社会	5=英語
選択肢					
	6=その他				
その他の教科名					

高等学校1～3年

	1=国語	2=数学	3=理科	4=社会	5=英語
選択肢					
	6=情報	7=その他			
その他の教科名					

1-①. 現状以上にライセンスや台数が必要かどうか。

(1)選択肢一覧	1=必要である 2=必要でない
----------	--------------------

2. DAISY<sup>注3)</sup>教科書・教材の利用

(1)DAISY教科書・教材を利用している児童生徒はいますか。

(1)選択肢一覧	1=いる 2=いない
----------	---------------

【(1)で「いる」を選んだ方へ】

(2)「いる」の場合は人数を教えてください。

人

注3)「DAISY」とは、Digital Accessible Information Systemの略で、視覚障害者や普通の印刷物を読むことが困難な人々のためにカセットに代わるデジタル録音図書の国際標準規格として、12カ国の正規会員団体が構成するデイジーコンソーシアム(本部スイス)により開発と維持が行なわれている情報システムをいう。

## V ICT並びに支援機器の活用状況

1. 学校で行われている効果的なICT、支援機器の活用の具体的な事例をお書きください。

その際、「指導のねらい」には、可能であれば障害(自閉症やダウン症など)と各教科であれば、教科(国語、算数など)も合わせてお書きください。

障害種 選択肢一覧	1＝視覚障害 2＝聴覚障害 3＝知的障害 4＝肢体不自由 5＝病弱
--------------	---

学部 選択肢一覧	1＝幼稚部 2＝小学部 3＝中学部 4＝高等部 5＝専攻科
-------------	---

指導形態 選択肢一覧	1＝一斉指導 2＝小集団指導 3＝個別指導
---------------	-----------------------------

教科・領域等 選択肢一覧	1＝各教科 2＝道徳 3＝総合的な学習の時間 4＝特別活動 5＝自立活動 6＝各教科等合わせた指導
-----------------	--

使用機器 選択肢一覧	1＝電子黒板 2＝コンピュータ画面を拡大表示する機器 3＝タブレット型コンピュータ(Windows) 4＝タブレット型コンピュータ(iOS) 5＝タブレット型コンピュータ(Android) 6＝スキャナ 7＝デジタルカメラ 8＝教育用コンピュータ 9＝その他(指導のねらいに名称等をお書きください)
---------------	---

(記入例)

障害種	1
学部	4
指導形態	3
教科・領域等	1
使用機器	8
指導のねらい	全盲の生徒を対象に、スクリーンリーダを活用してコンピュータの操作を行わせる。

--	--

①

障害種	
学部	
指導形態	
教科・領域等	
使用機器	
指導のねらい	

②

障害種	
学部	
指導形態	
教科・領域等	
使用機器	
指導のねらい	

③

障害種	
学部	
指導形態	
教科・領域等	
使用機器	
指導のねらい	

④

障害種	
学部	
指導形態	
教科・領域等	
使用機器	
指導のねらい	

⑤

障害種	
学部	
指導形態	
教科・領域等	
使用機器	
指導のねらい	

1-①. 上記事例に関する指導案を提供頂けますか。

1-①選択肢一覧	1=はい 2=いいえ
----------	---------------

--

※はいの場合には、研究所から別途依頼させて頂くことがあります。

2. ICTの活用を中心に支援機器、教材・教具の活用に関する課題についてお答えください。

ICTの活用を中心に支援機器、教材・教具の活用に関する課題(複数選択)

1=校務分掌への位置づけや運営方法	
2=学校内にICT活用の専門家害ない	
3=学校外にICT活用の専門家害ない(ICT支援員等)	
4=ガイドブックやマニュアル、参考書等の不足	
5=機器やネットワークの保守・管理	
6=無線LANが使えない	
7=有料アプリケーションを購入する仕組みが整っていない	
8=タブレット端末を購入する仕組みが整っていない	
9=ICT機器等を購入する仕組みが整っていない	
10=障害のある子どもがタブレット端末にアクセスするための周辺機器の不足	
11=障害のある子どもが従来のパソコンにアクセスするための周辺機器の不足	
12=デジタル教科書の利用	
13=その他	

## VI 研究指定校など(オプション)

1. ICTの活用を中心に支援機器、教材・教具の活用に関して、校内研究のテーマあるいは、国、都道府県、大学、民間等の研究指定、委嘱などがあればお書きください。なお、その中でタブレット端末等の貸与、あるいは寄贈があれば備考にお書きください。

①

名称				
実施期間(自)		年		月
実施期間(至)		年		月
備考				

②

名称				
実施期間(自)		年		月
実施期間(至)		年		月
備考				

③

名称				
実施期間(自)		年		月
実施期間(至)		年		月
備考				

これでアンケート調査は終わりです。ご協力ありがとうございました。

この回答用紙をメールに添付し、v-ict-res1@nise.go.jp まで送信してください。

なお、ファイル名<特総研ICTアンケート特別支援学校(学校名)>の( )の中に、貴校の学校名をお書きください。

**件名：「障害のある児童生徒のための ICT 活用に関する総合的な研究  
—学習上の支援機器等教材の活用事例の収集と整理—」に関する調査（回答）**

所属名：( )

回答者ご氏名：( )

連絡先：TEL：( ) E-mail ( )

1 「無線LANの設置状況について」貴教育委員会での方針をお聞きします。

1-1 無線LANが特別支援学校で使用できますか。該当するものに○をつけてください。

( ) できる → 1-2へ

( ) できない → 2へ

( ) 現状はできないが、できるように検討している → 2へ

( ) その他

1-2 無線LANが使用できる場合の留意事項について、該当するものに○をつけてください（複数回答可）。

( ) 校内LAN（教職員ネットワーク）には、接続させない。

( ) 校内LANで使用しているものと別なインターネット回線を使用させている。

( ) 有線LANと同様に利用できる。

( ) その他

2 「アプリケーション(オンラインのみで入手できるタブレットPC用アプリケーション)導入の整備状況について」貴教育委員会での方針をお聞きします。なお、有料アプリケーションの購入については、公費利用を対象とします。

2-1 特別支援学校でアプリケーションの追加導入および追加購入ができますか。該当するものに○

をつけてください。

- 無料・有料ともにできる。
- 有料のみできる。
- 無料のみできる。
- できない。
- 現状はできないが、できるように検討している。
- その他

2-2 アプリケーションの導入および購入方法について、該当するものに○をつけてください（複数回答可）。

- 一定の金額分の利用権を購入し、郵券のように利用用途を記録する。
- 有料アプリケーションを含めたタブレットPCを購入する。
- 有料アプリケーションを含めたタブレットPCをリース・レンタルする。
- プリペイドカード等の利用権を立替払いで購入する。
- 有料アプリケーションと同一金額分のプリペイドカードを購入する。
- 有料アプリケーションの追加購入はできない。
- 無料アプリケーションの追加導入はできない。
- その他

2-3 2-1 および2-2 で回答いただいたアプリケーションを利用するタブレットPCについて、該当するものに○をつけてください（複数回答可）。

- iPad
- Android タブレット
- Windows タブレット
- その他

これで調査は終わりです。ご協力ありがとうございました。



# 「障害のある児童生徒のためのICT活用に関する総合的な研究—学習上の支援機器等教材の活用事例の収集と整理—」に関するアンケート調査 (小中高等学校版)

はじめにお読みください

## 1. 本調査の目的

本調査は、国立特別支援教育総合研究所における、専門研究A「障害のある児童生徒のためのICT活用に関する総合的な研究—学習上の支援機器等教材の活用事例も収集と整理—」(平成26年度～平成27年度)の研究の一環として行う調査です。本調査では、ICTの活用を中心に、通常の学級、特別支援学級、通級指導教室に対して、ICT機器及び教材の整備状況を調査し、その活用に関する課題を整理することを目的としています。

この調査のデータは、全国の通常の学級、特別支援学級、通級指導教室に関する全体的な状況を把握するために使用し、個々のデータをその学校や設置者、回答者が分かるような形で公表することはありませんが、特徴的な事例については、訪問調査の対象とさせて頂くとともに、研究成果報告書や文部科学省が進めている教材データベース等への掲載について、別途をお願いをすることがあります。

**なお、この調査は平成26年8月1日現在の状況をご記入ください。**

## 2. 本調査の回答者

本調査では、通常の学級、特別支援学級、通級指導教室におけるICT機器及び教材の整備状況を把握されている方に回答を頂くことを想定しています。そのため、「特別支援教育コーディネーター」の担当者に回答頂きますよう、お願い申し上げます。

## 3. 調査結果の公表について

本調査結果について、回答者個人や学校が特定される形での公表は一切行いません。

## 4. 締め切り

回答はメールに添付の上、平成26年9月5日(金)までに返信ください。

回答専用e-mail : [v-ict-res2@nise.go.jp](mailto:v-ict-res2@nise.go.jp)

## 5. 問い合わせ先

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

〒239-8585 神奈川県横須賀市野比5-1-1

問い合わせ専用e-mail: [v-ict-inquiry@nise.go.jp](mailto:v-ict-inquiry@nise.go.jp)

研究代表者: 金森克浩

研究副代表者: 梅田真理

【参考文献】本調査に関する用語等は、下記の文献を参考にしています。

「障害のある児童生徒の教材の充実について 報告」

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/tokubetu/material/1339114.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1339114.htm)

※このファイルはEXCEL2013で作成しておりますので、EXCEL2007以上での開封を推奨いたします。

※プルダウンで選択内容を変更したい時は、「delete」キーを押して、再度選択してください。

### 【アンケート調査の質問項目】

※本調査では、次のⅠ～Ⅴの5区分について伺います。

Ⅰ. 基本情報	Ⅳ. デジタル教科書等の整備
Ⅱ. 校内体制	Ⅴ. 特別な支援を必要とする児童生徒へのICT機器の活用状況
Ⅲ. 機器の整備	

### ※アンケートの入力に関する注意点

アンケートの入力に関しましては以下の点に気を付け入力してください。

①各設問は太枠内に入力してください。太枠以外のセルには入力しないでください。

②  ※水色のセルは自由記載回答です。セル内での改行は行わないようお願いいたします。

③  ※ピンク色のセルは選択式の設問です。プルダウンから選択してください。

## I 基本情報

1. 学校名・校長名・記入者名・記入者分掌名・メールアドレス  
各項目について、以下の欄に記入ください。

学校名	
校長名	
記入者の氏名	
記入者の分掌名	
メールアドレス	

### 2. 学級数

貴校の学級数について、以下の欄に記入ください(特別支援学級を含む)。

小学校	
中学校	
高等学校	

### 3. 特別支援学級数・通級指導教室数

(1) 障害種別の特別支援学級数について、以下の欄に記入ください。

障害種別	特別支援学級数
知的障害	
肢体不自由	
病弱・身体虚弱	
弱視	
難聴	
言語障害	
自閉症・情緒障害	

(2) 障害種別の通級指導教室数について、以下の欄に記入ください。

障害種別	通級指導教室数
言語障害	
自閉症	
情緒障害	
弱視	
難聴	
学習障害	
注意欠陥多動性障害	
肢体不自由	
病弱・身体虚弱	
複数障害対応(LD・ADHD通級等)	

### 4. 児童生徒数

児童生徒数について、以下の欄に記入ください。

小学校		人
中学校		人
高等学校		人

### 5. 職員数・支援員・補助員・介助員

職員、支援員、補助員、介助員の人数について、以下の欄に記入ください。

	教職員数	支援員	補助員	介助員
小学校				
中学校				
高等学校				

## II 校内体制

### 1. ICTを活用するための校内分掌がありますか。

(1) 選択肢一覧	1=ある 2=なし
-----------	--------------

--

【(1)で「ある」を選んだ方へ】

(2)「1=ある」場合、分掌名、人数、頻度をお知らせください。頻度は1=週、2=月の選択肢がありますので、プルダウンよりお選びください。

※選択肢一覧	1=週 2=月
--------	------------

分掌名			
人数			
頻度		回	

(3)「ある」場合、その校内分掌は機能していますか？

(3) 選択肢一覧	1=十分機能している 2=機能している 3=ある程度機能しているが特定の教員に依存している 4=ほとんど機能していない
-----------	--

--

### 2. 学校にはICTを使った授業を支援する「ICT支援員」はいますか。

(1) 選択肢一覧	1=いる 2=いない
-----------	---------------

--

【(1)で「いる」を選んだ方へ】

(2)「1=いる」場合、名称、人数、頻度をお知らせください。頻度は1=週、2=月の選択肢がありますので、プルダウンよりお選びください。

※選択肢一覧	1=週 2=月
--------	------------

名称			
人数			
頻度		回	

### 3. ICT活用に関する校内研修を実施していますか。

(1) 選択肢一覧	1=実施している 2=実施していない
-----------	-----------------------

--

【(1)で「実施している」を選んだ方へ】

(2)「実施している」場合、どのような内容の研修を実施していますか。

※選択肢一覧	1=全校 2=学年 3=個人
--------	----------------------

(記入例)

内容	演習を伴う研修を実施	
年間の実施回数	3	
対象	1	

内容		
年間の実施回数		
対象		

内容		
年の回数		
対象		

Ⅲ 機器の整備 ※学校の台帳等に記載のある機器についてご回答ください。

1. 学校の情報環境についてお聞きします。

(1)学校内に無線LANに接続できる環境はありますか。

(1)選択肢一覧	1=はい 2=いいえ
----------	---------------

--

【(1)で「はい」を選んだ方へ】

(2)「はい」の場合、どこにありますか。以下から選んでください。(複数回答可)

	1=職員室	2=コンピュータ教室・視聴覚室	3=通常の学級	4=特別支援学級	5=通級指導教室
選択肢					
	6=特別教室	7=体育	8=校庭	9=体育館	10=その他
特別教室内訳					
その他					

(3)ネットワークのセキュリティポリシーはもっていますか。

(3)選択肢一覧	1=学校独自でもっている 2=教育委員会レベルでもっている 3=もっていない
----------	--

--

2. 以下の各機器について、学校の各場所に設置されている台数を回答してください。  
 また、今年度中に導入されることが決定している場合には、その台数を括弧書きで記入ください。

機器の名称	設置場所の台数		
	通常の学級	特別支援学級	通級指導教室
電子黒板			
コンピュータ画面を拡大表示するもの <sup>注1)</sup>			
タブレット型コンピュータ			
実物投影機			
スキャナ			
デジタルカメラ			
教育用コンピュータ <sup>注2)</sup>			
機器の名称	導入台数		
	特別教室	コンピュータ教室	その他(職員室等)
電子黒板			
コンピュータ画面を拡大表示するもの <sup>注1)</sup>			
タブレット型コンピュータ			
実物投影機			
スキャナ			
デジタルカメラ			
教育用コンピュータ <sup>注2)</sup>			

注1)「コンピュータ画面を拡大表示するもの」とは、プラズマテレビ、液晶テレビ、プロジェクタなどのコンピュータ画面を拡大して表示できる機器を言う。

注2)「教育用コンピュータ」とは、タブレット型以外の教育用コンピュータをいう。

3. タブレット型コンピュータを導入している場合はどのようなOSを使っていますか。  
 以下の該当する項目を選択してください。

3. 選択肢一覧	1=Windows 2=iOS 3=Android 4=その他( )
----------	---

その他	1
-----	---

#### IV デジタル教科書等の整備

1. 校内で共通して使用しているデジタル教科書<sup>注1,2)</sup>はありますか。

(1) 選択肢一覧	1=ある 2=ない
-----------	--------------

--

(2) (教科内の科目についてはあるものを記入してください。例: 社会(世界史))

小学校1～2年

	1=国語	2=算数	3=その他
選択肢			
その他の教科名			

小学校3年以上

	1=国語	2=算数	3=理科	4=社会	5=その他
選択肢					
その他の教科名					

中学校1～3年

	1=国語	2=数学	3=理科	4=社会	5=英語
選択肢					
	6=その他				
その他の教科名					

高等学校1～3年

	1=国語	2=数学	3=理科	4=社会	5=英語
選択肢					
	6=情報	7=その他			
その他の教科名					

注1)ここでいう「デジタル教科書」とは、平成26年8月1日現在で使用している教科書に準拠し、教員が電子黒板等を用いて児童生徒への指導用に活用するデジタルコンテンツをいう。

注2)文部科学省から配布されている英語ノート及び「Hi Friends!」は含めない。

2. DAISY<sup>注3)</sup>教科書・教材の利用

(1)DAISY教科書・教材を利用している児童生徒はいますか。

(1)選択肢一覧	1=いる 2=いない
----------	---------------

【(1)で「いる」を選んだ方へ】

(2)「いる」の場合は人数を教えてください。

人

注3)「DAISY」とは、Digital Accessible Information Systemの略で、視覚障害者や普通の印刷物を読むことが困難な人々のためにカセットに代わるデジタル録音図書の国際標準規格として、12カ国の正規会員団体が構成するデイジーコンソーシアム(本部スイス)により開発と維持が行なわれている情報システムをいう。

## V 特別な支援を必要とする児童生徒へのICT機器の活用状況

1. 活用の状況について以下の内容を確認していただきながら、選択またはお書きください。  
(項目は3つまで設けております)

障害種 選択肢一覧 (主なものを1つ選 択)	1=視覚障害 2=聴覚障害 3=肢体不自由 4=病弱 5=知的障害 6=自閉症 7=LD 8=ADHD 9=重複障害 10=未診断
---------------------------------	--

指導の場 選択肢一覧	1=通常の学級 2=特別支援学級 3=通級指導教室
---------------	---------------------------------

(記入例)

学年	小学校3年生
障害種	7
指導の場	3
子どもニーズ・特性	視機能に課題が在り、読みの困難がある。
機器の種類・特性	ノートPCを使用し、ビジョントレーニングのソフトウェアを使用。動きや音があるため、興味をもって取り組める。
<b>指導のねらい及び内容と指導形態、実際の効果(可能な範囲でお書きください)</b>	
ねらい:視機能のトレーニング 内容:ビジョントレーニングのソフトウェアを使用した練習 形態:個別指導 効果:興味をもって取り組み、進んで練習に臨んだ。現段階では効果と言えるものは出ていないが、継続して取り組ませたい。	

(記入例)

学年	小学校2年生
障害種	8
指導の場	1
子どもニーズ・特性	集中して指示を聞くことが困難で、説明を理解するまでに時間がかかる。
機器の種類・特性	実物投影机と液晶テレビを使用。テレビ画面に実物を映す。
<b>指導のねらい及び内容と指導形態、実際の効果(可能な範囲でお書きください)</b>	
ねらい:漢字ノートの使用方法の説明 内容:実物を画面上に写しながら使用方法を説明する。 形態:一斉指導 効果:実物のノートが映し出されるため、興味をもって説明を聞くことができ理解もスムーズだった。	

(記入例)

学年	小学校4年生
障害種	5
指導の場	2
子どもニーズ・特性	知的障害があり、語彙が少なく会話が難しい。
機器の種類・特性	タブレット型コンピュータにVOCAのソフトウェアを入れ、会話の補助具として使用する。
<b>指導のねらい及び内容と指導形態、実際の効果(可能な範囲でお書きください)</b>	
ねらい:自分の意志を相手に伝える。 内容:タブレット型コンピュータにVOCAのソフトウェアを入れ、コミュニケーションボードとして会話の際に活用する。 形態:個別指導 効果:機器に興味を示し指さそうとする	

①

学年	
障害種	
指導の場	
子どもニーズ・特性	
機器の種類・特性	
<b>指導のねらい及び内容と指導形態、実際の効果(可能な範囲でお書きください)</b>	

②

学年	
障害種	
指導の場	
子どもニーズ・特性	
機器の種類・特性	
<b>指導のねらい及び内容と指導形態、実際の効果(可能な範囲でお書きください)</b>	



③

学年	
障害種	
指導の場	
子どもニーズ・特性	
機器の種類・特性	
指導のねらい及び内容と指導形態, 実際の効果(可能な範囲でお書きください)	

2. 特別な支援を必要とする児童・生徒へのICT機器の活用についての課題等をお書きください。(自由記述)

--

これでアンケート調査は終わりです。ご協力ありがとうございました。

この回答用紙をメールに添付し、v-ict-res2@nise.go.jp まで送信してください。

なお、ファイル名<特総研ICTアンケート小中高(学校名)>の( )の中に、貴校の学校名をお書きください。

(資料5)教材・支援機器活用実践事例フォーマット(特別支援学校版)

	実践年度	
参加する授業について	教科名等 (該当する教科名等を選択。当てはまらない場合はその他を選択し、次の単元・題材名の欄に記入。)	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数/数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作/美術 <input type="checkbox"/> 家庭/技術・家庭 <input type="checkbox"/> 体育/保健 <input type="checkbox"/> 体育 <input type="checkbox"/> 道徳 <input type="checkbox"/> 外国語/外国語活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 各教科等を含めた指導 <input type="checkbox"/> その他の教科 <input type="checkbox"/> その他( )
	単元・題材名	
	授業の目標	
	観点別学習状況の評価の観点 (教科の特性により設定した観点がある場合は「その他」を選択し記載。)	<input type="checkbox"/> 「知識・理解」 <input type="checkbox"/> 「技能」 <input type="checkbox"/> 「思考・判断・表現」 <input type="checkbox"/> 「関心・意欲・態度」 <input type="checkbox"/> その他( )
学習集団の実態	学部・学年・人数	<input type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 <input type="checkbox"/> 特別支援学級 <input type="checkbox"/> 特別支援学校 <input type="checkbox"/> 就学前 <input type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生以降 <input type="checkbox"/> 特定されない
	対象の障害	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱 <input type="checkbox"/> 言語障害 <input type="checkbox"/> 自閉症 <input type="checkbox"/> 情緒障害 <input type="checkbox"/> LD(学習障害) <input type="checkbox"/> ADHD(注意欠陥/多動性障害) <input type="checkbox"/> その他
	子どもの課題(特性・ニーズ)	<input type="checkbox"/> 聞く <input type="checkbox"/> 読む <input type="checkbox"/> 見る <input type="checkbox"/> 話す <input type="checkbox"/> 書く <input type="checkbox"/> 運動と姿勢 <input type="checkbox"/> 計算する <input type="checkbox"/> 推論する <input type="checkbox"/> 日常生活活動 <input type="checkbox"/> 社会性・コミュニケーション <input type="checkbox"/> 不注意 <input type="checkbox"/> 多動性・衝動性 <input type="checkbox"/> 覚える・理解する <input type="checkbox"/> 時間的・空間的・人的交流の制約 <input type="checkbox"/> その他
ICT活用について	使用した支援機器・教材の名称 (使用した支援機器・教材の名称を記載。なお、特定の製品に特化した実践の場合は製品名を記載。)	
	活用のねらい	Aコミュニケーション支援( <input type="checkbox"/> A1意思伝達支援 <input type="checkbox"/> A2遠隔コミュニケーション支援)B活動支援( <input type="checkbox"/> B1情報入手支援 <input type="checkbox"/> B2機器操作支援 <input type="checkbox"/> B3時間支援)C学習支援( <input type="checkbox"/> C1教科学習支援 <input type="checkbox"/> C2認知発達支援 <input type="checkbox"/> C3社会生活支援)
授業展開	授業展開 (授業展開を記載。複数の時数にわたる場合は、授業時数を記載する)	
効果・評価	ICTを活用した授業の子どもの様子や変容および授業の評価	

(資料6)教材・支援機器活用実践事例フォーマット(小中高版)

	実践年度	(実践年度を記載してください。)
参加する授業について	教科名等 (該当する教科名等を選択。当てはまらない場合はその他を選択し、次の単元・題材名の欄に記入。)	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数/数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作/美術 <input type="checkbox"/> 家庭/技術・家庭 <input type="checkbox"/> 体育/保健体育 <input type="checkbox"/> 道徳 <input type="checkbox"/> 外国語/外国語活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 各教科等を合わせた指導 <input type="checkbox"/> その他の教科 <input type="checkbox"/> その他( )
	単元・題材名	
	授業の目標	
	観点別学習状況の評価の観点 (教科の特性により設定した観点がある場合は「その他」を選択し記載。)	<input type="checkbox"/> 「知識・理解」 <input type="checkbox"/> 「技能」 <input type="checkbox"/> 「思考・判断・表現」 <input type="checkbox"/> 「関心・意欲・態度」 <input type="checkbox"/> その他( )
子どもの実態	学部・学年・人数	<input type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 <input type="checkbox"/> 特別支援学級 <input type="checkbox"/> 特別支援学校 <input type="checkbox"/> 就学前 <input type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生以降 <input type="checkbox"/> 特定されない
	対象の障害	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱 <input type="checkbox"/> 言語障害 <input type="checkbox"/> 自閉症 <input type="checkbox"/> 情緒障害 <input type="checkbox"/> LD(学習障害) <input type="checkbox"/> ADHD(注意欠陥/多動性障害) <input type="checkbox"/> その他
	子どもの課題(特性・ニーズ)	<input type="checkbox"/> 聞く <input type="checkbox"/> 読む <input type="checkbox"/> 見る <input type="checkbox"/> 話す <input type="checkbox"/> 書く <input type="checkbox"/> 運動と姿勢 <input type="checkbox"/> 計算する <input type="checkbox"/> 推論する <input type="checkbox"/> 日常生活活動 <input type="checkbox"/> 社会性・コミュニケーション <input type="checkbox"/> 不注意 <input type="checkbox"/> 多動性-衝動性 <input type="checkbox"/> 覚える・理解する
ICT活用について	使用した支援機器・教材の名称 (使用した支援機器・教材の名称を記載。なお、特定の製品に特化した実践の場合は製品名を記載。)	
	活用のねらい	
授業における支援	内容	
効果・評価	ICT活用による子どもの変容や評価	